

キーワード

プレーリヤカー 自然遊び 公園

団体・活動概要

当団体は、世田谷区の羽根木公園の冒険遊び場づくりに関わった一人の主婦(矢郷恵子氏)が、1983年に自主保育ネットワークとして発足させたものがもとになっている。彼女は乳幼児期における遊び場の環境が重要であると考え、このネットワークに参加する親たちと冒険遊び場の普及や運営に携わった。1990年代からは、乳幼児の遊び環境と遊び場について調査活動を行っている。

2003年に、各地の冒険遊び場のNPOや協会と連携して乳幼児期の冒険遊び場の可能性を探る「冒険遊び場と子育て支援研究会」を設立した。2005年度には、乳幼児期に外遊びが生き生き行える空間や公園を育てるために、内閣府の都市再生モデル調査「乳幼児期の生き生き公園利活用調査」を世田谷区と協働で実施した。乳幼児の外遊び実践のためのノウハウの蓄積、子育て中の親たちのニーズの把握等を行い、世田谷区との協力関係を築いてきた。

助成年度の活動概要

2005年度のモデル調査の結果をもとに、実験活動を行いながらシステムの検討を行った。

実験案

1. 公園に公園遊びサポーターなどの人的配置を行う
2. 既存公園に遊びの仕掛けを実施する
3. 乳幼児の庭づくりを推進する

活動対象地域

東京都世田谷区
面積：58.08km²
人口：811,000人



活動の特徴・ポイント

1. プレーリヤカーの出前と自然遊びの会
2. 公園遊びサポーターの存在
3. 団体はコーディネーターに徹し、定常的な活動は各地域に任せる
4. 多様な協力者(地域のNPO、建築家、学生、遊具メーカー、行政等)の存在

KOPA(冒険遊び場と子育て支援研究会)

代表者 矢郷 恵子

連絡担当者 矢郷 恵子

住所 〒155-0033 東京都世田谷区代田3-48-5 梅ヶ丘アートセンター内 (有)毎日の生活研究所内

TEL FAX 03-3419-3194

e-mail umegaoka@msc.biglobe.ne.jp

ホームページ http://www5b.biglobe.ne.jp/~umegaoka/

1. 活動の背景・目的

1) 調査の実施

乳幼児期に外遊びが生き生き行える空間や公園を育てるために、2005年度に「内閣府都市再生モデル調査」を世田谷区と協働で実施し、「乳幼児期の公園利活用の現状・活用アイデア調査」を区内の子育て中の親たちと子育て支援者との連携で行った。

調査内容は以下の4項目であった。

1. 区内の乳幼児と親に人気のある15公園を対象とした子どもの現状観察

観察の観点

道路、他施設との連続性、立地等の周辺環境、利用者、花壇や樹木の様子、風紀的な面

観察の結果、規模、地面の舗装方法や遊具の種類などの設備、周辺環境や立地形態が多様により、乳幼児と親に人気のある公園は決まったタイプに限定されないということがわかった。

2. 乳幼児連れの保護者(400人)へのアンケート

世田谷区内の公園が乳幼児期の親子にどのように利用され、評価されているかを知るとともに、乳幼児が利用しやすい公園像を探ることを目的とした。

アンケート項目の内容

- ・利用の実態について
- ・利用する公園の好感度とその理由
- ・公園の規模や形態について
- ・公園の遊具、設備、緑について
- ・公園の管理・運営について

3. 子育て支援者との公園利活用アイデア会議

アンケート結果を踏まえて「こんな仕掛けや仕組みがあったらいいな」という13の公園利活用アイデアをアンケート調査に協力してくれた20人の親たちと作成した。

13アイデアの内容

1. 公園遊びのサポーター
2. ランチパーティー・プロジェクト
3. 区内の公園情報の発信
4. 子育て掲示板の設置
5. 「遊び道具小屋」の設置・遊び道具の貸し出し
6. 花壇づくりプロジェクト
7. 自然観察、自然遊びの会の開催
8. 公園利用者と語る会(公園利用者交流会)
9. 外遊びプレーカーの巡回
10. 屋台カフェ
11. 乳幼児の庭づくり
12. カマドがあるコーナーの設置
13. 乳幼児が主役の冒険遊び場づくり



乳幼児に人気がある世田谷区内の公園



新築マンションに囲まれた世田谷区内の公園でプレーリヤカー活動が実施された

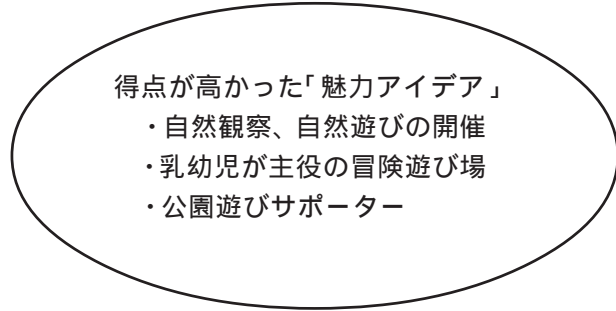
4. 子育て中の保護者(112人)による13アイデアへの投票

以下の観点から投票を実施

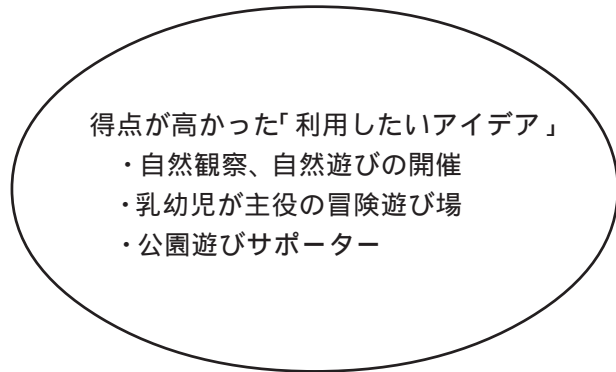
- ・魅力アイデア
- ・利用したいアイデア
- ・担い手になりたいアイデア

地域の子育て支援者、遊び場関係者、行政と協力して、投票されたアイデアから実行可能なプランを選択し、システムの検討を行いながら既存公園を活用して実施することとした。

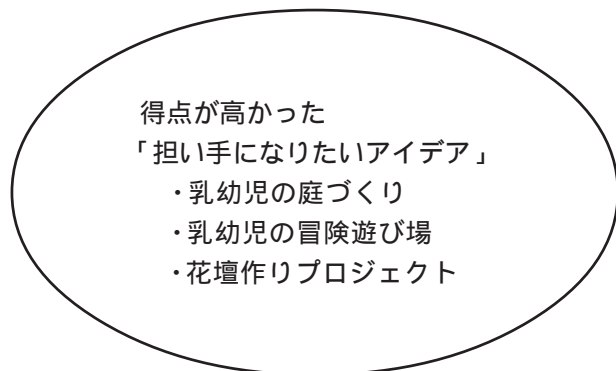
投票の結果



「自然観察、自然遊びの開催」イメージ



「乳幼児が主役の冒険遊び場」イメージ



「公園遊びサポーター」イメージ



自然遊びの会では育児経験を有するインストラクターが自然との触れ合い方をわかりやすく指導する



自然遊びの会を開始する前にインストラクターが参加者に活動の主旨を説明している様子

2) 調査結果から

(1) 乳幼児期の公園利用として

公園の規模より利便性(児童施設に近い、買い物
が便利、道に面している)が利用理由のトップで
あった

決まった公園を利用しているが、季節での使い分
けなどがあり、2、3カ所の公園が使われていた
公園の遊具では滞留時間が長い、親子の交流が育
つ、子どもが夢中で遊ぶ、などの理由で「砂場」が
もっとも人気があった。また水場も夏の遊び場と
して求められていた

緑陰を作る、生物が集まるなどで緑の導入の希望
も高かった

(2) 乳幼児期の公園利用の課題として

親たちがくつろげるという項目が最下位で、その
仕組みや仕掛けづくりの必要性

公園に親しみ親子の会話を育てるための自然との
ふれあいづくり

土、水、草木など身近な自然と遊べる公園での仕
掛けづくり

親同士をつないでいく地域の子育て経験者などの
存在づくり

などのニーズや工夫点が拾えた。

2. これまでの実績

1984年 公園や広場を利活用した子育てサークルの
ネットワーク化

1995年 乳幼児期の外遊びを推進する住宅周りの環
境調査実施

2000年 乳幼児期の外遊びを支援する子育て支援活
動をスタート

2003年 子育て支援と冒険遊び場について調査実施

2005年 内閣府都市再生モデル調査「乳幼児期の活
き生き公園利活用調査」実施

地域と連携した乳幼児の冒険遊び場づくり
事業を首都圏3ヶ所の冒険遊び場と連携し
て実施

2006年 地域と連携した乳幼児の冒険遊び場づくり
事業を首都圏3ヶ所の冒険遊び場と連携し
て実施

3. 助成年度の活動内容

1) 具体的な活動の紹介

世田谷区内の子育てグループや子育て支援者と連
携して、既存の公園で乳幼児期の親子の活動を育て
る「遊具を積んだプレーリヤカーの出前」と「自然
観察会」を開始することにした。

活動の特徴は以下の6点である

1. 対象は乳幼児期の親子で野外での活動の支援を
目的とする
2. 普段の利用を促進するために既存の公園を利用
する
3. 実施には地域の子育てグループ、子育て支援者
と連携する
4. 区の公園、子育て部署との連携を図る
5. イベントでなく日常の場面を創り出す
6. 小規模公園に対応していくためにハードとソフ
トを運び込める移動、巡回型のものとする

プレーリヤカーの出前

10月から合計8回にわたり、公園遊びサポーター
が遊び道具を積んだプレーリヤカーをひいて鎌田
地区の堂ヶ谷戸公園を巡回した。プレーリヤカー
の出動時間は午前11時から午後1時までの2時間
とした。1月からは、世田谷区の委託(自然体験
遊び場づくり事業)を受けて、下北沢、三軒茶屋
を巡回した。

自然遊びの会

区内の公園や緑道で親子の自然観察や遊びの会を
5月から2月にかけて計5回実施した。子育て経
験を有したインストラクターが身近な公園の自然
の豊かさや自然との触れ合い方を教えた。

この公園が好きな理由

この公園が好きな理由を8つの項目から3つまで選んでいただき、その具体的な内容を聞きました。

回 答	回答数	(%)	主な理由
1. 通り道などで利便性が高いから	230	58.4%	家に近い、買い物帰りに利用 等
2. 公園の周囲の環境がいいから	139	35.3%	緑や自然が多い、広い、車が少ない 等
3. 公園に入りやすいから	112	28.4%	開放的で見通しが効く、入り口が多い 等
4. 子どもが飽きずに遊ぶことができるから	175	44.4%	遊具が充実、特徴的な遊具がある 等
5. 乳幼児に適した公園だから	118	29.9%	小さい子向けの遊具、柔らかい床材 等
6. 親がくつろげるから	60	15.2%	イス・テーブルが充実、友達がいる 等
7. 安心感もてるから	118	29.9%	常に人の目がある、見通しが良い 等
8. 人のつながりや気配があるから	122	31.0%	友達が多い、仲間づくりができる 等

平成17年度内閣府全国都市再生モデル調査「乳幼児期の生き生き公園利活用調査」アンケート結果

2) 協力団体と協力者

(1) 子育てグループや子育て支援者の活用

プレーリヤカー活動

実施にあたり、「砧・多摩川遊び村(子育て団体)」と協力し開催した

保管場所は「砧・多摩川遊び村」と「多摩川水辺の楽校(環境系団体)」の倉庫を借りた

公園遊びサポーターとして鎌田地域のメンバーで子育てネットワークがある方々を確保した

プレーリヤカーに搭載する遊具については、子育てに関心が高い建築家で「OfficeMIKIKO」を主宰する遠藤幹子さんにデザインと制作をお願いした

また、桑沢専門学校の学生たちにも制作の手伝いをお願いした

他の搭載品については、遊具メーカー「株式会社ボーネルンド」の協力で砂場道具を安価で購入した

運行については、世田谷区の子ども部、公園管理事務所へ協力を要請した

公園使用に関しては公園管理事務所の占有許可を受け、届出の日程と時間を厳守して実行した

自然遊びの会

実施にあたり、区内の4つの子育て団体(アミーゴ、新しい保育を考える会、たまごとひよこ、子育てサロンぽっぽ)と協力し開催した

自然体験遊びのインストラクターは「NPO法人日本のふる里体験村」や「プレーパークの世話人の母親たちが勤めてくれた

観察会の開催については子育てメーリングリストなどを活用して参加者や開催団体を募集した

(2) プレーリヤカーの開発で工夫した点、苦労した点

サポーターが持ち運びできる重量であり、遊び場においても安定感があること

乳幼児が対象であることからカラフルで軽量の素材を使用すること



自然遊びの会の様子



遊び道具を搭載したプレーリヤカー

保管を考えると組み立てが容易でしまいやすいつくりにする

4. 活動の成果と課題

1) 達成度

乳幼児期の親子対象の外遊びへの支援が身近な公園利活用で行えた

プレーリヤカー運行は近隣の乳幼児の方々が楽しみにして集まってきた

ソフトとハードをコンパクトに組み立て巡回し、季節や公園の立地条件の良し悪しにかかわらず、乳幼児の外遊びを促進した

子育て支援者がサポーターとして参加し、経験を活かし、親への交流や対応が行えた

日常規模で大規模な予算や仕掛けでなく、しかも直接に子育て当事者へのサービスが行えたなどが成果として挙がる。

子育て支援として公園施設を利用し、野外遊びを推進するという活動に、プレーリヤカーに手作りの遊具を積み込み、サポーターという子育て経験者が引いて巡回するという、システムが開発できたことが大きな成果である。



プレーリヤカー活動の案内

2)波及効果

プレーリヤカーの運行

プレーリヤカーは発想が面白く、子育て支援としての発展性があり、公園利活用の促進につながるなどで注目度が高い。多摩、横浜、世田谷の子育て団体のイベントなどからも借用したいとの希望もある。新聞や育児雑誌などの取材などプレスにも注目された。

自然遊びの会

世田谷の子育て団体やグループから出張観察会の申し出がある。現場は各団体やグループの利用している公園で、日常活動と結びついたこのような活動を子育てママが必要としていることが改めてわかった。

世田谷区との連携

06年度内に世田谷区の委託事業が受けられ、巡回先を3ヶ所増やしていくことができた。

07年度も世田谷区の委託事業として運行し、区内で安定した事業とするために、プレーリヤカーを増設していく予定である。

また、期間中に多摩市の家庭学級への出張、横浜市でプレーリヤカー事業の計画が進むなど多様な展開をしている。

マスコミでの紹介

- ・朝日新聞 5月19日 都内版朝刊
- ・朝日新聞 9月24日 都内版朝刊
- ・読売新聞 12月8日 都内版朝刊
- ・NHK 首都圏いっと6けん「公園での子育て支援」

取材紹介記事

- ・子ども環境学会(07年度全国集会で報告)
- ・フォーラムアソシエ(子育てサポーター養成講座で紹介)
- ・遊育
- ・0歳からの脳と心を育てる本(主婦の友社)



遊び道具はボードにh引っ掛けられるようになっている

3)課題と解決方法

安定した事業を行うために以下の3点の課題と解決方法を挙げる。

サポーターの育成

プレーリヤカーの引き手を増やし、安定した運行を行うために、引き手をサポーターとして位置づけ、サポーターを確保する。

サポーターには、一日の講習会などに参加していただき、プレーリヤカーの準備、親との対応を学ぶ時間を用意する。



公園遊びサポーターがプレーリヤカーを引いて公園に向かう

公園利活用への自由度をひろげる

現在は公園利用に回数や日時を記入して占有許可を取っている。

地域との摩擦や公園利用者とのトラブルを防ぐために占有許可は大きな意味があるが、天候などに合わせて自由に巡回できるように緩やかな対応を希望している。

保管先の確保

プレーリヤカーをどこに保管するか？ 都心であり、リヤカーを引いて移動できる距離にも限界もある。

遊具と共に、現地の公園と近い保管ができる場所の確保は意外と大きな課題になった。

産婦人科の倉庫、個人宅のガレージなど、協力者が現れて新たな保管場所が確保できた。



遊び道具のひとつ「三角ボード」はおうちになったりお絵かきに使用されたりする

5 . 今後の展開

子育て支援で、外遊びをおこなう環境や仕組みづくりは始まったばかりである。特にイベントでなく日常的な場面をどのように育てていけるかは大事な視点である。

規模が小さく、地域との連携がとりやすく、公園という公的施設を活用してのプレーリヤカーの巡回や観察会は、地域交流、地域人材の活用、省資源、省経費という点など、有効性が非常に高い取り組みといえる。プレーリヤカーは世田谷区での連携も始まり、ある規模の事業として展開していく可能性が持てた。また各地で今後もこの活動は拡大していくと予想する。

当団体としては、

プレーリヤカー巡回のノウハウの提供、講座等での紹介

プレーリヤカーの引き手であるサポーター研修を企画・実施し人材を育てる

プレーリヤカーの貸し出しをおこない、各地でモデル的に取り組んでいく機会を提供する

などを検討している。乳幼児期の外遊び場づくりとしてプレーリヤカーの普及に積極的に手を貸していきたい。



プレーリヤカーの出勤する公園には、
いくつものお母さんたちのグループができる



団体のコアメンバーは全国のプレーパークづくりに
精力的に取り組んでいる



自然遊びの会でお母さんが遊びに夢中になっている様子